

## 奨学金給与規程

公益財団法人 隈研吾建築奨学財団

公益財団法人 隈研吾建築奨学財団  
奨学金給与規程

第 1 章 総 則

(奨学生の資格)

第 1 条 この法人の奨学生となる者は、建築学を専攻する日本国内の大学院に在学する学生のうち、作品が特に優れていると認められる者で、学業成績が優秀、かつ健康である者でなければならない。

(奨学生の種類と奨学金の額及び給付期間)

第 2 条 奨学生の種類と奨学金の額は、次のとおりとする。

大学院奨学生 月額 50,000 円

2 前項の奨学金の給付期間は、2 年間とする。

第 2 章 奨学生の採用と奨学金の交付

(奨学生願書及び奨学生推薦書の提出)

第 3 条 奨学生志願者は、当財団あての奨学生願書に、自己推薦書、指導教員の推薦状、ポートフォリオ（作品集）、成績証明書及び在学証明書等を添付して提出するものとする。

(奨学生の採用)

第 4 条 奨学生の採用は、指導教員が推薦し、奨学生選考委員会の選考を経て、理事会が決定し、その結果を本人に通知する。

2 奨学生として採用された者は、前項の通知を受けた日から 14 日以内に誓約書を理事長あて提出しなければならない。

(奨学金の交付)

第 5 条 奨学金は、毎月一定日に交付するものとし、特別の事情があるときは、2 カ月以上を合わせて交付することができる。

2 奨学金の交付は、本人指定の口座に送金して行うものとする。

(学業成績表及び生活状況の報告)

第 6 条 奨学生は、毎年度末、学業成績表及び生活状況報告書を理事長あて提出しなければならない。

(異動届出)

第 7 条 奨学生は、次の各号の一に該当する場合は、直ちに届け出なければならない。  
ただし、これらの者が病気その他の事由により届け出ることができないときは、  
在学長または指導教員等が届け出るものとする。

- (1) 休学、復学、転学、留学、留年又は退学したとき
- (2) 停学、その他の処分を受けたとき
- (3) 本人の氏名、住所その他重要な事項に変更があったとき

(奨学金の休止及び停止)

第 8 条 奨学生が休学し又は長期にわたって欠席したときは、奨学金の交付を休止する。  
2 奨学生の学業又は素行などの状況により指導上必要があると認めたときは、奨  
学金の交付を停止する。

(奨学金の復活)

第 9 条 前条の規定により奨学金の交付を休止又は停止された者が、その事由が止んで  
在学長を経て願い出たときは、奨学金の交付を復活することがある。

(奨学金の廃止)

第 10 条 奨学生が次の各号の一に該当すると認めるときは、指導教員等の意見を徴して、  
奨学金の交付を廃止する。

- (1) 傷痍疾病などのために成業の見込がなくなったとき
- (2) 学業成績又は素行が不良となったとき
- (3) 奨学金を必要としない理由が生じたとき
- (4) 在学学校で処分を受け学籍を失ったとき
- (5) 応募書類の記載事項に虚偽が発見されたとき
- (6) 応募作品の不正が発覚したとき
- (7) 前各号のほか、第 1 条に規定する奨学生としての資格を失ったとき

(奨学金の辞退)

第 11 条 奨学生は、いつでも奨学金の辞退を申し出ることができる。

### 第 3 章 奨 学 生 の 補 導

(奨学生の補導)

第 12 条 奨学生の資質の向上を図るため、学業成績及び生活状況に応じた適切な指導を  
行うものとする。

## 第 4 章 反社会的勢力の排除

(反社会的勢力の排除)

第 13 条 以下に該当する者は、当該財団の奨学生となることはできない。

- (1) 本人および本人の 3 親等以内の親族が、暴力団、暴力団関係企業、総会屋もしくはこれらに準ずる者またはその構成員（以下、「反社会的勢力」という）である者
  - (2) 反社会的勢力に自己の名義を利用させようとする者
- 2 奨学生候補者および奨学生の採用決定後に、反社会的勢力である者または反社会的勢力に自己の名義を利用させようとする者であることが判明した場合には、その採用を取り消すものとする。また、奨学金の支給後に判明した場合には、原則として、給付済の奨学金の返還を求めるものとする。

## 第 5 章 補 則

(実施細目)

第 14 条 この規程の実施について必要な事項は、別に定める。

(規定の改廃)

第 15 条 この規程の改廃は、理事会の決議を経て行うものとする。